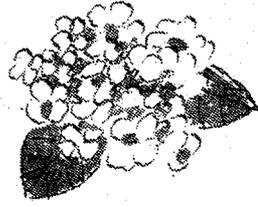


紫陽花



シカゴから

三橋節子

シカゴでの生活をお話ししましょう。朝は行列代数のような地理に利用出来る数学科のクラスを聞きに参ります。午後は地理の地域分析のセミナーに出たり、新しく出来た都市研究のコースを聞く他は主に図書館で過します。それから論文を電子計算機で処理していますので、大学のコムピューター・センタにも時々参ります。夕食を大学の食堂で済ませた後、論文を読んだり書いたり大抵夜11時か12時頃迄大学で過します。先週地域分析のセミナーで私は日本の鉄道貨物輸送を因子分析した結果を話しました。都市研究のコースでは地理の他、経済政治法律社会人口歴史等の教授が、各分野から都市問題を分析するので興味があります。こちらでは地理のコースを取り終ると地球物理、統計、経済、社会、人類学等をとる様にすすめられ、学部間の壁が薄いのは好ましいことです。

ここにいる事の利点は本で名前を知っている世界の地理学者達が大学を訪れて、話を聞ける事です。この間は *G. Alexandersson* 教授が都市研究の方法論的な題で北欧を例にとって話をし、シカゴの若い助教授と正面衝突しました。今月は *Bösch* 教授がスイスアルプスの経路地理と題し、英独仏イタリ語等を混ぜて移住の話をしました。これは方法論ではなく事実の記述なので、美しいアルプスのスライドを見ながら会はなごやかに終わりました。

以下余談。学生のいたすらについて。

こちらは秋冬春夏の4学期があり普通10月-6月の秋冬春学期で *one academic year* と言います。そのどの学期でも論文が終れば卒業出来るのですが、やっぱり春学期に卒業する人が一番多いのです。従って春学期の終りである6月12日には教人がマスターを取った他、博士コースの学生達は博士論文が終る前にアメリカ中の大学に教えに行くので、10人近くが去りました。その最後に何かいたすらをしてしようというわけで、各 *professor* 毎にかえ歌を作りそれに *flute* の伴奏をつけたり *dance* をつけたりしてひろうしました。場所は各学期の最後に順番にお茶に招いてくれる *professor*

のお宅。hostlessであるそのProfessorの天人にだけ、歌をうたわせて欲しいと許可を得。他のProfessorには内緒。これは大成功でhostessにアンコールを言われた程です。

ニューヨークから

金子晶子

昨秋10月末、日本を後に私達はNew Yorkの北西、Syracuseという人口25万程の小都市に到着。ここは19世紀始め、今日のNew Yorkの発展に大きな貢献をしたErie Canal完成によって発展したHudsonの支流Mohawkの谷ぞいに運る都市の1つで、地形的には豊富な水河地形町の発展上からは、かつてのIndianの地名、塩の生産地を物語るSalt Museum Italyのシラクサに由来する市名等、なかなか興味ある町です。気候はちよと旭川程度ここで11-5月まで私達の越冬生活。とはいっても室内は25.6度。屋外ではcarの利用、確かに寒さは厳しいものでしたが今思い出すとそれだけに一応5月と共に一番にライラック、りんごetcの花に町中が囲まれてしまうのは、北国ならではの味えない大きな喜びだったでしょう。そして5月、教授と共に主人もSyracuse Univ. (地理の分野は有名でDr. Jamesとの話合、渡辺先生との出会等印象的でした)からUniv. of Californiaへの転勤。その前にアメリカ東岸をみたいものとCaliforniaをかわきりにWashington, Niagara Fall Ottawa - Montreal, New York etc 毎週carによる旅を楽しみました。たか何といっても最大の旅は約2週間3500マイル(約600km)をcacで走破した大陸横断の旅だったでしょう。見渡す限りのcorn beet 牧場。6月というのに2m近くの残雪のRocky 越え。そして3日と続いたdry area。広大な国だどつくづく感じつつやっとな数日前Sacramentoの郊外ここDavisに到着したわけです。さてこれから残る1年半。変化の多かった前半に比し今度は少しじっくりとアメリカの内面性等みていきたいと考えています。